

JSCS

日本カリキュラム学会
The Japanese Society for Curriculum Studies

第37回広島大学大会プログラム

2026年6月20日(土)～21日(日)

〒730-0053

広島市中区東千田町一丁目1番89号

広島大学 東千田キャンパス

第37回大会実行委員会

委員長 磯崎哲夫

E-mail jscs2026hiroshima@gmail.com

大会 HP <https://jscs-info.jp/meeting/meeting.htm>

37th

日本カリキュラム学会

第37回 広島大学大会プログラム

◆前 日 2026年6月19日(金) 16:00~18:00 理事会

広島大学 東千田キャンパス 慎思棟 5階 SENDA LAB

◆第1日 2026年6月20日(土)

受付 9:30~ 広島大学東千田キャンパス 東千田未来創生センター1階

10:00	課題研究 I 学校教育における情報活用能力の育成 とカリキュラム研究 M401 講義室	課題研究 II 日本のカリキュラム研究の国際展開を 問う—教育研究の国際化における Input と Output の往還を視点として— M304 講義室
	昼食/新理事会 (SENDA LAB)	
12:00	自由研究発表 I	
13:00	M201、M202、M203、M204、M301、M302、M303、M304、M401	
	休憩・移動	
15:00	公開シンポジウム	
15:30	「価値ある知識」とこれからのカリキュラム	
17:30	M401 講義室	
	休憩・移動	
18:00	研究交流会	
19:30	大学生協「プナナダイニング」	

◆第2日 2026年6月21日(日)

受付 8:30~ 広島大学東千田キャンパス 東千田未来創生センター1階

9:00	自由研究発表 II	
11:00	M201、M202、M203、M204、M301、M302、M303、M304、M401	
	休憩・移動	
11:10	総会	
12:10	M401 講義室	
	昼食	
12:30	課題研究 III 人口減少社会に学校カリキュラムはど のように貢献しうなのか? M401 講義室	課題研究 IV “ことば” とカリキュラム—体験や生活 を基とした授業・学校づくり— M304 講義室
14:30	休憩・移動	
14:45	自主企画セッション	
16:15	M201、M202、M203、M204	

大会参加要領

1. 会場

広島大学 東千田キャンパス 東千田未来創生センター
アクセスについては下記サイトをご参照ください。

https://www.hiroshima-u.ac.jp/centers/education_facilities/miraisousei



2. 受付

広島大学東千田キャンパス 東千田未来創生センター1階

3. 大会参加申込（参加費）について

【参加登録（参加申込）】

オンラインシステムにより事前の参加登録を受け付けます。参加をご予定の方は、以下の受付期間にシステムにより参加のお申込みおよび参加費の納付をお願いします。詳しくは学会ホームページの「最新の全国大会」をご参照ください (<https://jscs-info.jp/meeting/meeting.html>)。

なお、大会第1日（6月20日（土））15:30から予定されております公開シンポジウムにつきましては、どなたでも無料で参加いただけます（人数把握のため、上記、参加申込システムでシンポジウムのみ参加受付も行っております。ただし、当日の参加も可能です）。この機会に是非ご参加ください。

【事前参加申込期間】 2026年3月2日（月）正午 ～ 5月31日（日）17時まで

※大会当日も会場にて参加受付を行います。運営の円滑化のため、できる限り事前の参加申込・参加費納付にご協力ください。

【事前参加申込システム】

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/apply/JSCS>



【参加費】

参加費収納事務の効率化と納付手続きの利便性向上のため、クレジット決済を導入しております。クレジット決済につきましては、参加申込システム上で手続きを行ってください。また、従来通り、郵便振替でのご入金も承っておりますので、口座情報については、参加申込システムの申込完了メールをご参照ください。

正会員	3,000円
学生会員	1,000円
団体会員	3,000円（※）
臨時会員	4,000円
公開シンポジウム参加のみ	無料

※団体会員である機関からは、会員価格で複数名での参加が可能です。複数名での参加をご希望の場合は手続きについて事務局 g050jscs-mng@ml.gakkai.ne.jp（[at]を@に変更してください）へお問い合わせください。また、大会参加費等で「団体会員」が適用されるのは5名までとし、大会で1団体がエントリーできるのは、自由研究発表1件、自主企画セッション1件までです。

4. 昼食

近隣にはスーパーマーケット、コンビニエンスストアもありますが、数も少ないため、できる限りお弁当の事前予約購入をお願いいたします（1食1,200円）。事前予約購入はオンライン参加登録システム上で可能です。当日のお弁当購入は対応致しかねますことをご承知おきください。

5. 研究交流会

大学生協「プナナダイニング」にて行います。研究交流会の参加は、事前予約（5月31日〆切）のみ受け付けます。事前予約は、オンライン参加登録システム上で可能です。事前予約のない方は、研究交流会に参加できないことをご承知おきください。皆様の積極的な参加をお待ちしております。

研究交流会費	4,000円
学生会員	2,000円

6. 要旨集および発表資料について

自由研究発表・シンポジウム・課題研究の発表要旨は、大会2週間前から専用サイトよりダウンロード可能となります（会員／臨時会員（参加者））。配布準備ができましたら、専用サイト・メール等でご案内申し上げます。

また、上記に加え、各発表者の要旨原稿および発表資料（任意／システムへアップロードした方のみ）についても大会2週間前から専用サイトにて閲覧・ダウンロード可能となる予定ですので、こちらについても準備が整いましたら、併せてご案内申し上げます。

7. 保育・介護・看護等に係る大会参加・発表のための助成について

学会への参加・発表をされる大会参加者は、保育・介護・看護等に係る助成をご利用いただけます。

助成対象者：

対面参加者；どなたでも利用可能です。

オンライン参加者；発表がある方の発表時間帯のみ利用可能です。

助成内容：上限額を1万円とし、利用額の8割を補助する。

助成利用申請：以下のフォームよりご申請ください。

URL：<https://forms.gle/ittWqWpQ8fiRjgBV7>



申請後の流れ：

- ① 契約：申請者それぞれで保育・介護・看護等の契約をしていただきます。
- ② 利用：申請者それぞれで保育・介護・看護等の契約をしていただきます。
- ③ 領収書提出：利用額に係る領収書を大会実行委員会に提出していただきます。
- ④ 助成額送金：事務局より助成額を送金いたします。

○広島大学東千田キャンパス周辺の託児施設の紹介について

以下の施設では、託児をご利用いただけます。直接、託児施設へ連絡をし、契約と利用の手続きをしていただきます。下記の情報をご参照いただき、上記の助成利用申請にてご回答ください。

① おかえりランド広島園

住所：〒730-0029 広島県広島市中区三川町 4-10 プリンセス並木 3階

電話：082-246-5859

HP：<https://www.okaeri-rand.net/home.php>

対象年齢：3か月～小学生

② オレンジ

住所：〒730-0025 広島県広島市中区東平塚 8-8 1F

電話：082-569-9767

HP：<https://aaa-orange.com/>

対象年齢：6か月～小学生

- ③ NURSERY ひすい (※6/20 (土) のみ営業/予約 : 5月20日 (水) 頃まで)
住所 : 〒730-0044 広島市中区宝町 5-10 1階 B 号室
電話 : 082-215-5529
HP : <https://www.nursery-hisui.com/>
対象年齢 : 0 歳 ~ 未就学児

8. WiFi ゲストアカウムの申込について

大会会場では Eduroam がご利用いただけます。Eduroam をご利用いただけない大会参加者は、広島大学の WiFi ゲストアカウムの発行いたします。

WiFi ゲストアカウムのご利用を希望される場合は、参加登録時に併せてお申込みください。なお、WiFi ゲストアカウムの利用期間は大会期間中のみとなります。

9. 問い合わせ先 (大会事務局)

日本カリキュラム学会第 37 回広島大学大会実行委員会

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">• 大会運営・企画関係 : 大会実行委員会
jscs2026hiroshima[at]gmail.com ([at]を@に変更してください。)• 入会・会員管理・会費管理関係 :
g050jscs-mng[at]ml.gakkai.ne.jp ([at]を@に変更してください。)
(株) ガリレオ学会業務情報化センター内 日本カリキュラム学会事務局• 参加登録・発表申込関係 :
g050jscs-taikai[at]ml.gakkai.ne.jp ([at]を@に変更してください。)
(株) ガリレオ学会業務情報化センター内 日本カリキュラム学会事務局 (大会担当) |
|--|

自由研究発表要領

1. 発表時間について

自由研究発表の時間は、原則として次の通りです。

個人研究発表 25分（発表20分・質疑討議5分）
共同研究発表 50分（発表40分・質疑討議10分）

なお、共同研究であっても、発表者がお一人の場合は個人研究発表と同じ時間設定です。

2. 発表資料について

発表資料は、発表者が、ご自身で発表申込システムからアップロードできます。大会参加者は、発表者がアップロードした資料を各自のPCやタブレットなどの端末から閲覧することになります。また、紙媒体で発表資料を配布したい場合は、各自で必要部数をご用意の上、当日開始までに各部屋後方のコーナーに置いてください。大会実行委員会では追加の印刷はできかねますので、ご了承ください。事前に送付することもお控え願います。なお、大会校では印刷機やコピー機を使用できません。

3. 発表用機材について

発表の際に機材を使用する予定の発表者は、分科会開始前に各自で事前に動作確認を行ってください。なお、HDMIの接続ケーブルは大会校で用意しますが、それ以外のケーブルやパソコンなどは各自でご用意願います。

4. 発表タイトルに関するご注意

発表タイトルは、発表申込後（4月17日17時以降）には変更はできません。申込時と同じタイトルで、発表要旨のご提出と大会当日のご報告をお願いいたします。

5. 発表辞退について

やむを得ない事情で発表を辞退される場合は、必ず事前に大会実行委員会までメールでご連絡ください。なお、発表辞退に伴う発表時刻の繰り上げは実施しません。

自主企画セッション要領

1. 発表資料について

発表資料は、発表者が、ご自身で発表申込システムからアップロードできます。大会参加者は、発表者がアップロードした資料を各自のPCやタブレットなどの端末から閲覧することになります。また、紙媒体で発表資料を配布したい場合は、当日各会場にて企画者が配布してください。大会実行委員会では追加の印刷はできかねますので、ご了承ください。事前に送付することもお控え願います。なお、大会校では印刷機やコピー機を使用できません。

2. 発表用機材について

機材を使用する場合は、開始前に各自で事前に動作確認を行ってください。なお、HDMIの接続ケーブルは大会校で用意しますが、それ以外のケーブルやパソコンなどは各自でご用意願います。



広島大学（東千田キャンパス）へのアクセス

所在地：広島大学東千田未来創生センター 〒730-0053 広島県広島市中区東千田町 1-1-89






■ JR広島駅(広島市)から大学へ




◆バス利用(広島駅新幹線口発)

広島駅(中央口)
↓ 徒歩3分
新幹線口バス乗り場
(1番乗り場)
↓  路線バス
↓ 広電バス、広島バス、広交バス(まちのわ
ーぷ左回り )
↓ 八丁堀・日赤病院・大学病院・広島駅方面
↓ ※広電バスのサイトに移動します
↓ 約16分・240円
「日赤病院前」下車
↓ 徒歩2分
↓
広島大学


◆市内電車利用

広島駅(中央出口)
↓ 徒歩3分
市内電車乗り場
↓  市内電車
↓ (広電1番広島港行き)
↓ 路線図  時刻表 
↓ ※広島電鉄のサイトへ移動します
↓ 約30分・240円
「日赤病院前」下車
↓ 徒歩2分
↓
広島大学

◆バス利用(広島駅南口発)



広島駅(中央出口)
↓ 徒歩3分
広島駅(南口)
南口バス乗り場
(南口6番のりば )
↓  路線バス
↓ 広島バス(50号東西線 )
↓ アルパーク方面行き
↓ ※広島バスのサイトに移動します
↓ 約12分・240円
「日赤病院前」下車
↓ 徒歩2分
↓
広島大学

◆タクシー利用




広島駅(中央出口)
↓ 徒歩3分
タクシー乗り場
↓  タクシー
↓ 約9分・約900円
↓
広島大学

航空機(広島空港)をご利用の方

◆リムジンバス(広島駅新幹線口行き)

広島空港(三原市)
↓  リムジンバス
↓ 約45分・1,500円
↓ (時刻表) 
↓ ※広島空港のサイトへ移動します
広島駅(新幹線口)
↓ 徒歩5分
広島駅(中央出口)
↓ 徒歩3分
※以下、広島駅からバスまたは市内電車利用参照
↓
広島大学

◆リムジンバス(広島バスセンター行き)

広島空港(三原市)
↓  リムジンバス
↓ 約55分・1,500円
↓ (時刻表) 
↓ ※広島空港のサイトへ移動します
広島バスセンター
↓ 徒歩5分
市内電車「本通」電停(1・3・7号線)
↓ 路線図 
↓ ※広島電鉄のサイトに移動します
↓ 約10分・240円
「日赤病院前」下車
↓ 徒歩2分
↓
広島大学

(1) 新幹線・電車をご利用の場合

①JR 広島駅南口より

・バス

6 番のりば 50 東西線 (アルパーク方面行き)

「日赤病院前」下車 (約 12 分・240 円) 徒歩 2 分

・市内電車

広電 1 号線 (広島港行き) 「日赤病院前」下車 (約 30 分・240 円) 徒歩 2 分

・タクシー

広島駅南口タクシー乗り場→広島大学東千田キャンパス (約 9 分・約 900 円)

②JR 広島駅新幹線口より

・バス利用

1 番乗り場 301 (まちのわループ左回り)

「日赤病院前」下車 (約 16 分・240 円) 徒歩 2 分

・タクシー利用

広島駅新幹線口タクシー乗り場→広島大学東千田キャンパス (約 9 分・約 900 円)

広島駅南口バス 6 番のりば 50 東西線 時刻表 :

<https://www.hirobus.co.jp/route-bus/documents/50/dw/50dw-01.pdf>



広島駅新幹線口バス 1 番乗り場 301 時刻表 :

<https://www.hirobus.co.jp/route-bus/documents/machinowa/left/300-1-01>



広島電鉄 時刻表 : <https://www.hiroden.co.jp/cgi-bin/rlist.cgi>



(2) 航空機 (広島空港) をご利用の場合

・リムジンバス (広島駅新幹線口行き) より

広島空港 2 番ホーム→広島駅新幹線口 (約 45 分・1,500 円)

新幹線口で降車後は、上記(1)を参照

・リムジンバス (広島バスセンター行き) より

広島空港 1 番ホーム→広島バスセンター (約 55 分・1,500 円)

バスセンターから徒歩 5 分→市内電車「本通」1・3・7 号線に乗換

「日赤病院前」下車 (約 10 分・240 円) 徒歩 2 分

広島空港リムジンバス

バス乗り場 : <https://www.hij.airport.jp/access/noriba.html>



時刻表 : <https://www.hij.airport.jp/access/timetable/>



(3) フェリー (広島港) をご利用の場合

市内電車 広電 1 号線 (広島駅行き) または 7 号線 (横川駅行き)

「日赤病院前」下車 (約 10 分・240 円) 徒歩 2 分

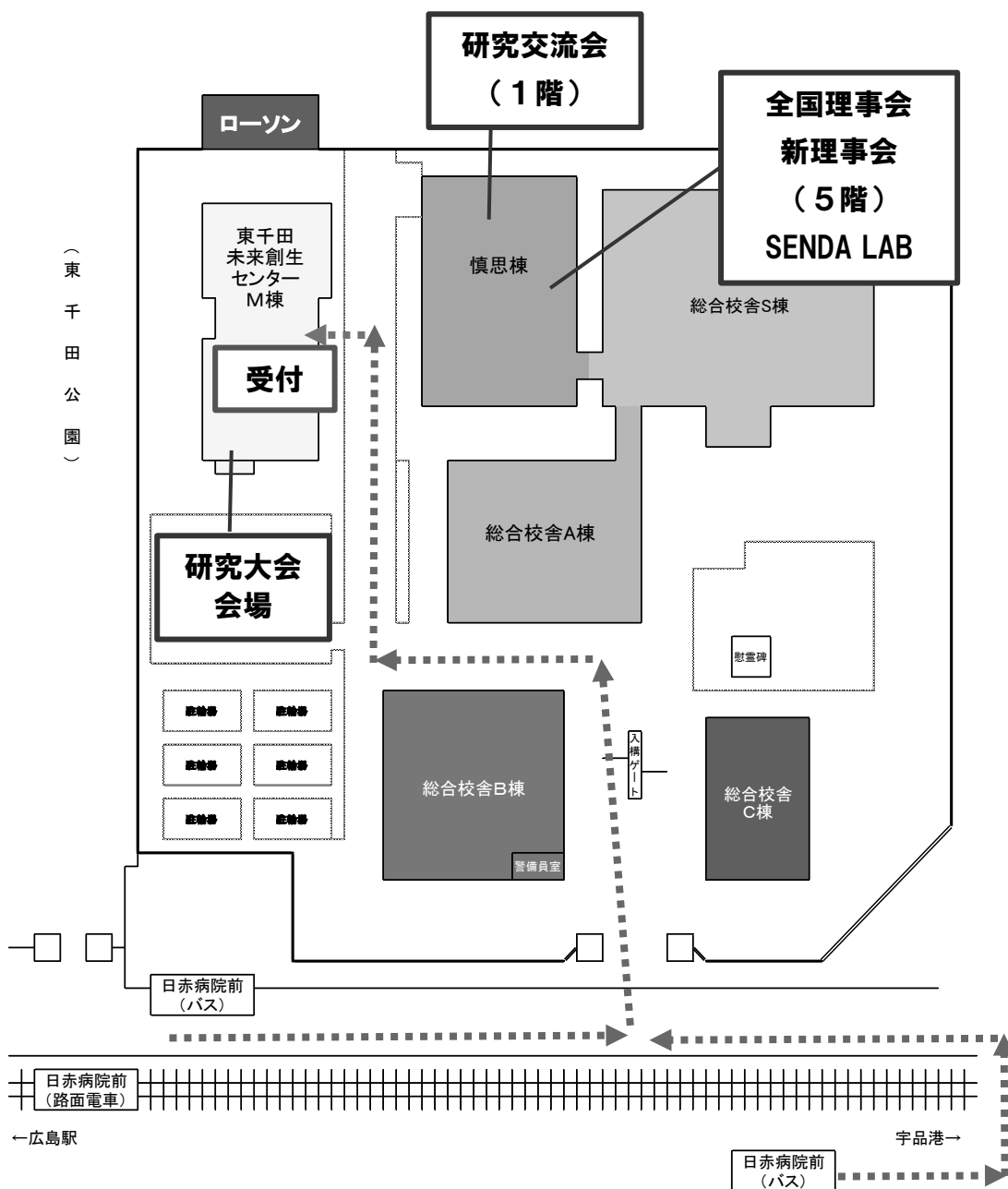
(4) お車でお越しの場合

山陽自動車道広島 I.C.より約 10km (所要時間 : 約 30 分)

※キャンパス内の駐車場は使用できませんので、近隣の駐車場をご利用ください。

大会会場の略地図

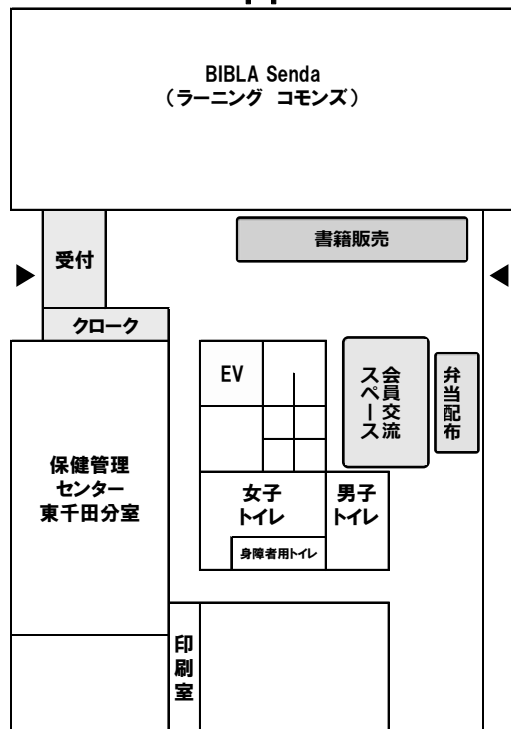
〈キャンパス全体図〉



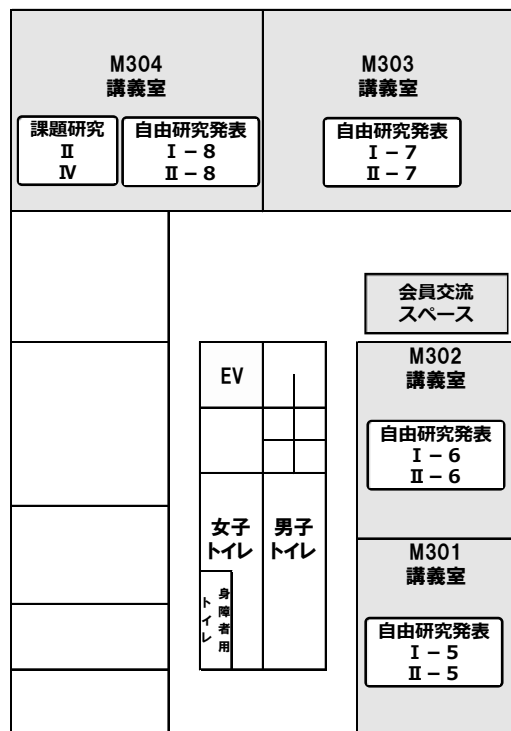
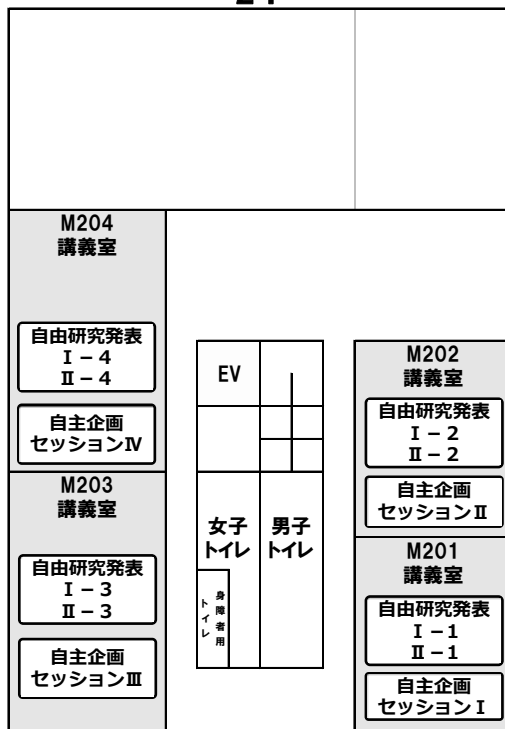
- ・昼食は、未来創生センター内の教室をご利用いただけます
- ・研究交流会は慎思棟1階大学生協「バナナダイニング」です

〈東千田未来創生センター（M棟）フロアマップ〉

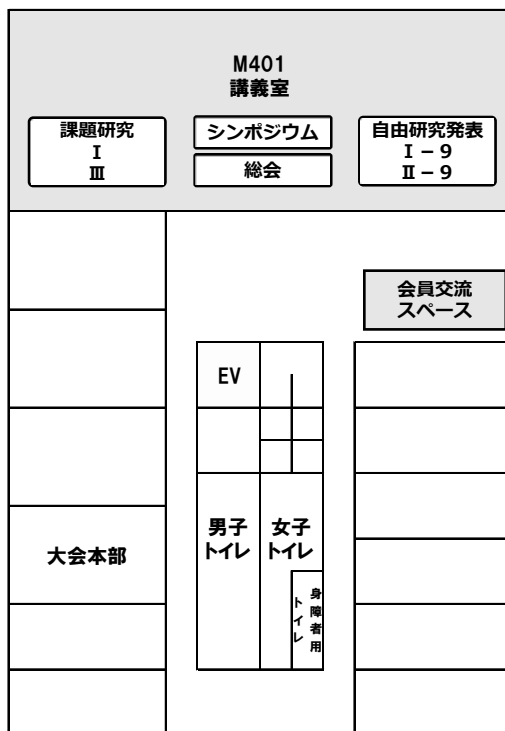
1 F



2 F



3 F



4 F

第1日（6月20日）10：00～12：00

課題研究 I

学校教育における情報活用能力の育成とカリキュラム研究

M401 講義室

中央教育審議会教育課程企画特別部会論点整理(2025年)においては、情報活用能力の育成に関して小中高を通じた体系的・抜本的な教育内容の充実が目指されている。特に、小学校では総合的な学習の時間に情報の領域（仮称）を付加することや、中学校では技術・家庭科を情報・技術科（仮称）として家庭科と分離するといった、カリキュラムに直結する改訂も構想されている。情報活用能力の育成においては、各教科および教科等横断的な指導を通じた情報教育の体系化の検討が求められる。その際、テクノロジーの発展をふまえて、従来のICTやタブレット、デジタル教科書、プログラミング教育に加えて、AIの活用、SNSをめぐる諸課題、ゲーミフィケーションといった、新たなツールや方法をふまえたカリキュラムを構想する必要がある。

そこで本課題研究では、これからの時代における情報教育について、カリキュラム研究の観点から以下の三点を中心に議論する。第一は、情報教育がどのような経緯で始まり現在に至っているかについて、教育課程史の観点から検討する。それとともに、現在の技術・家庭科をどのように再構成することができるかについても考察する。第二は、中央教育審議会における情報教育の動向について、特に情報の領域（仮称）、情報・技術科（仮称）の新設や高校情報科の見直しによって、内容や時数がどのように変わるのか、また他教科の学習や教科外活動への影響について検討する。それとともに、幼児教育から高校まで、どの段階で何をどのように学習するかといった、情報教育の体系化についても考察する。第三は、これからの授業においてどのような学習環境をデザインし、教材を開発することができるのかについて実践とともに検討する。特に、授業におけるAIの活用という観点から情報教育との関連を考察する。

課題研究においては、まず3名の登壇者にそれぞれの立場から研究成果や考えをご発表いただく。そのうえで、各発表についてメディアリテラシー研究を専門とする上杉氏よりご質問やご意見を述べていただく。登壇者の回答や意見をふまえて、最後に参加者の質問や意見へと議論を進める。新しい学習指導要領への準備も進んでいるが、産業界や政策が求める方向性を実現するための方策としてだけでなく、情報教育がなぜ必要であり何を指導すべきかという本質的な面について、カリキュラム研究の観点から考察したい。

<発表者>

- ・教育課程史における「情報教育」の位置づけ 丸山 剛史（宇都宮大学）
- ・中教審情報・技術WGにおける動向と情報教育カリキュラムの体系化 泰山 裕（中京大学、非会員）
- ・AI時代の学習環境デザインとカリキュラムのあり方 池尻 良平（広島大学、非会員）

<コメンテーター（指定討論者）>

- ・上杉 嘉見（東京学芸大学）

<司会・コーディネーター>

- ・樋口 直宏（筑波大学）
- ・鶴川 護（香川大学教育学部附属小学校）

<コーディネーター>

- ・小柳 和喜雄（関西大学）

第1日（6月20日）10:00～12:00

課題研究Ⅱ

日本のカリキュラム研究の国際展開を問う —教育研究の国際化における Input と Output の往還を視点として—

M304 講義室

国際交流委員会では、カリキュラム研究の国際的動向を踏まえ、授業研究 (Lesson Study) とカリキュラム研究 (Curriculum Study) の接点を探究する研究を進めてきた。

第一に、2024年度の課題研究では、日本の授業研究を教師の省察的実践に基づくカリキュラム研究として捉える可能性を検討し、米国における受容と展開を整理した。

第二に、2025年度の課題研究では、教育思想と教育実践の関係に着目し、米独のプラグマティズム等の教育観を手がかりに、思想・カリキュラム理論・授業実践の関係性を国際的視野から検討した。

第三に、最終年度（2026年度）は、3年計画の課題研究の総括としてテーマ設定を行った。本研究は、海外知見の受信 (Input) と日本の研究成果の国際発信 (Output) という双方向の往還交流に着目し、日本の教育研究が国際的文脈で果たしうる役割を検討することを目的とする。より具体的には、カリキュラム研究を軸に、その理論と教育実践 (授業分析・学校／カリキュラムマネジメント・教育課程行政など) との接点を論じ、日本の教育研究における国際的な「受信と発信」をセットにした往還的展開の可能性を検討する。

<発表者>

- ・日本型教育の「輸出」から双方向的な知見の「創出」へ
—「ペダゴジカル・コレクトネス」の変容と機能の視点から—
サルカール アラニ・モハメッド レザ (名古屋大学)
- ・趣旨説明：Curriculum Management 論における国内 Input と海外 Output
—長期展望に立った往還的な研究展開—
倉本 哲男 (静岡文化芸術大学)

<指定討論者>

- ・吉田 成章 (広島大学)

<司会・コーディネーター>

- ・松下 佳代 (京都芸術大学)
- ・小柳 亜季 (岩手大学)

第1日（6月20日）13:00～15:00

自由研究 I - 1

M201 講義室

司会 石井 英真（京都大学）
藤江 康彦（東京大学）

- 13:00 「カテゴリー」陶冶とはなにか
—ヴォルフガング・クラフキの陶冶理論を再解釈する試み—
田中 怜（筑波大学）
- 13:25 パワフル・ナレッジ（powerful knowledge）なることばが、どの場合に何を意味
するのか —分類と整理の試み—
○柳田 雅明（青山学院大学）
志村 喬（上越教育大学）
○野村 優成（広島大学附属小学校）
遠藤 貴広（福井大学）
- 14:15 米国中等学校の General education カリキュラム構想の対立
—「普通教育」拡張構想と H 大学「一般教育」構想—
水原 克敏（東北大学名誉教授）

全体討議（14:40-15:00）

自由研究 I - 2

M202 講義室

司会 磯田 文雄（花園大学）
田代 裕一（西南学院大学）

- 13:00 成城小学校のカリキュラム改革における「生命」原理の意義
—奥野庄太郎と稲森縫之助の指導観に着目して—
足立 淳（朝日大学）
- 13:25 広岡亮蔵の「主体性」概念
—戦後カリキュラム論における経験主義・系統主義の接点と現代への示唆—
加藤 達也（静岡市立横内小学校）
- 13:50 カリキュラム実践のためのラーニングウォークの導入
—英国の小学校のシニア・リーダーシップ・チームによる取り組みを参考にして—
○木原 俊行（四天王寺大学）
○森寄 章代（堺市立登美丘東小学校）

全体討議（14:40-15:00）

第1日（6月20日）13:00～15:00

自由研究 I - 3

M203 講義室

司会 上地 完治（琉球大学）
渡邊 巧（広島大学）

13:00 高校の科学的探究と社会科教育的な地域探究は、異種なのか
—郷土の現実を変革に導く生活知を生む学習を求めて—
安部 拓輝（筑波大学）

13:25 教育課程柔軟化で創り出す探究学習と会議体の精選による効果に関する実践研究
—探究学習の試行錯誤のプロセスとサキドリ研究校の実践を通して—
山口 博功（大阪市立長谷川小学校・中学校）

13:50 高等学校における学科新設に伴うカリキュラム開発プロセスとその経験に関する
事例的研究
○若松 大輔（弘前大学）
○鎌田 祥輝（摂南大学）
橋本 淳史（兵庫県教育委員会）

全体討議（14:40-15:00）

自由研究 I - 4

M204 講義室

司会 牛田 伸一（創価大学）
大島 崇（大分大学）

13:00 活動理論にもとづくチェンジラボラトリーによる STEAM カリキュラム開発
—大阪教育大学附属天王寺小学校における実践研究—
楊 晨（関西大学大学院）

13:25 学校のランドデザインの設計における特徴と課題に関する研究
—上越市中学校のランドデザインを中心に—
野澤 有希（上越教育大学）

13:50 教育の質保証と学校づくり —ドイツ各州の学校評価基準の検討—
○高橋 英児（山梨大学）
○高木 啓（千葉大学）
○樋口 裕介（福岡教育大学）

全体討議（14:40-15:00）

第1日（6月20日）13:00～15:00

自由研究 I - 5

M301 講義室

司会 西岡 加名恵（京都大学）
富士原 紀絵（お茶の水女子大学）

- 13:00 学校におけるカリキュラム・マネジメントの取組への「伴走支援」をめぐる教育委員会の役割に関する一考察
石田 有記（日本体育大学）
- 13:25 越境型カリキュラムの開発と実践 —翻訳活動は越境学習たりうるか？—
○守田 智裕（広島大学附属福山中・高等学校）
○沓脱 侑記（広島大学附属福山中・高等学校）
○手串 美香（広島大学附属福山中・高等学校）
- 14:15 カリキュラム・マネジメントの政策化と実質化の乖離
—小中学校における実態調査に基づく検討—
田村 知子（早稲田大学）

全体討議（14:40-15:00）

自由研究 I - 6

M302 講義室

司会 唐木 清志（筑波大学）
吉田 茂孝（大阪教育大学）

- 13:00 キャリア教育を充実させるカリキュラム・マネジメントⅢ
—「役割」意識を拓げる小中連携の在り方—
荒川 文雄（棚倉町教育委員会）
- 13:25 戦後新教育期における教科外活動カリキュラムの実践に関する事例研究
—金透プランにおける自育会の取り組みから—
坂本 篤史（福島大学）
- 13:50 スクールリーダー研修プログラムの効果の持続性に関する分析
○磯部 征尊（愛知教育大学）
○倉本 哲男（静岡文化芸術大学）

全体討議（14:40-15:00）

第1日（6月20日）13:00～15:00

自由研究 I - 7

M303 講義室

司会 大野 栄三（北海道大学名誉教授）
黒田 友紀（日本大学）

- 13:00 高等学校情報科における教師のカリキュラム解釈過程
—実践されたカリキュラム編成判断の分析—
福田 敏史（学習院大学大学院）
- 13:25 理科カリキュラムと関連付けた科学系博物館の展示資料の活用
—2種類の展示リーフレットの作成課題（地学領域）の事例分析—
長島 康雄（東北学院大学）
- 13:50 フォロワーシップの発揮における組織条件の初歩的な研究
—カリキュラム・マネジメントを機能させるマネジメントサイクルに着目して—
樋口 元昭（大阪教育大学大学院）
- 14:15 身近な生き物との関わりから生物多様性への気づきを導くカリキュラム編成
—身体性・応答性・法則性の3カテゴリによる概念形成と科学的プロセス—
渡邊 和也（堺市教育委員会）

全体討議（14:40-15:00）

自由研究 I - 8

M304 講義室

司会 木村 裕（花園大学）
中野 和光（福岡教育大学名誉教授）

- 13:00 イエナ大学附属学校における教育実践の歴史的再構成（2）
—コースとグループ作業における教授・学習過程に着目して—
安藤 和久（琉球大学）
- 13:25 教師の地域資源を活用したカリキュラム開発における思考プロセスの解明
—小学校教師による総合的な学習の時間の単元計画に焦点を当てて—
石部 正則（津山市立院庄小学校）
- 13:50 研究カリキュラムの弁証法 —自己の研究活動を事例として—
佐長 健司（福岡女子短期大学）
- 14:15 AI時代における評価主体の形成とカリキュラム構成
—「教育としての評価」の観点から—
田上 哲（九州大学）

全体討議（14:40-15:00）

第1日（6月20日）13:00～15:00

自由研究 I - 9

M401 講義室

司会 千々布 敏弥（国立教育政策研究所）
根津 朋実（早稲田大学）

13:00 高等学校の探究的な学びにおける「単元設計」と「経験されるカリキュラム」の
矛盾の超克

ーチェンジラボラトリーによる校内研修を通じたカリキュラム再定義の試みー
朝倉 恵（関西大学大学院）

13:25 ダブルバインドにおける自己変容についての考察

ーパブリック・ディベートにとまどう私自身のナラティブを事例としてー
加島 里奈（岩国市立東小学校）

13:50 教育課程において主体性はいかに成立するのか

ー学習条件としての生成過程の検討ー
中村 浩也（桃山学院大学）

14:15 ディープ・アクティブラーニングを促す学修活動の構造とプロセスに着目した教職
科目のカリキュラムデザイン

兵藤 清一（愛媛大学）

全体討議（14:40-15:00）

「価値ある知識」とこれからのカリキュラム

M401 講義室

かつて、第一次産業革命で科学が社会的に認知されるようになった時代に、スペンサーは「価値ある知識とはどのようなものか」を問いかけ、デジタル革命に代表される第三次産業革命と言われる時代にアップルは「誰の知識が価値あるものなのか」を応じ、「学校は何を教えるべきか」が重要なカリキュラム上の命題となった。

おりしも現代は先の見えにくい時代と言われ、複雑で不確実で脆い時代状況が私たちの社会状況の前提となって久しい。日本においても教育格差、学歴や経済の格差、学校や学び手や教師の差異、さらに量子コンピュータやAIといった技術革新を中心とする第四次産業革命や変動する気候や国際状況の中で、「価値ある知識」を一定に捉えることも困難になっている。こうした複雑な現実の中で、コンピテンシー重視のカリキュラムから知識の重要性も強調されるようになっており、第四次産業革命やその後の社会で活躍する子どもに対して、学校はどのような知識を価値あるものと捉えていくべきかは大きな検討課題となっている。

そこで、本シンポジウムでは異なる学校状況の中での実践を見ながら、そこで取り扱われる知識と、それがいかなる意味で価値となっているのかを掘り下げる。それを通して、カリキュラム論の視座から、知識の選定における包摂と排除の力学、教育制度や政策の影響、現場の教師や学び手の声を通して、知識の社会的構築性と政治性をふまえながら、これからのカリキュラムにおける知識のありかたを探りたい。

<登壇者>

- ・今なぜ「価値ある知識」なのか、そして誰のためのカリキュラムか
磯崎 哲夫（広島大学）
- ・物事の本質に迫る問いから組み立てるカリキュラム
下前 弘司（広島大学附属福山高等学校、非会員）
- ・カリキュラムをまなびほぐす 一定時制高校の事例をたよりに—
伊藤 晃一（千葉県佐倉南高等学校、非会員）
- ・カリキュラムづくりのプロセスと表現方法
八田 幸恵（大阪教育大学）

<司会・コーディネーター>

- ・藤本 和久（慶應義塾大学）
- ・南浦 涼介（広島大学）
- ・中矢 礼美（広島大学）【オンライン担当】

第2日（6月21日）9：00～11：00

自由研究Ⅱ－1

M201 講義室

司会 磯田 三津子（埼玉大学）
久野 弘幸（中京大学）

9:00 ノンバイナリー教員のジェンダー表現は教室の「隠れたカリキュラム」にいかにかに作用しうるか ―小学校教員の語りと学級観察をもとに―
山川 葵（早稲田大学大学院）

9:25 カリキュラム・マネジメントの継続・発展に資するミドルリーダーの工夫とその特徴
島田 希（大阪公立大学）

9:50 「生徒」を主語にした生徒活躍型の学校づくり
―NGSW プロジェクトとカリキュラム・マネジメントを通して―
○藤井 亮平（横須賀市立長沢中学校）
○吉富 芳正（東京学芸大学）

全体討議（10:40-11:00）

自由研究Ⅱ－2

M202 講義室

司会 金馬 国晴（横浜国立大学）
橋本 美保（東京学芸大学）

9:00 戦後初期における梅根悟のコア・カリキュラム論の構造的変容
―和歌山師範男子部附属小学校での実践的展開に着目して―
加藤 優汰（西九州大学）

9:25 白濱徹の図画教育論 ―普通教育における図画科の構想―
望月 ユリオ（山口大学）

9:50 経験から知や価値を創造するカリキュラム開発と実践に関する研究
―知や価値の創造の基盤となる異学年集団での経験の在り方の検討を通して―
○藤澤 大地（香川大学教育学部附属高松小学校）
○篠原 隆輔（香川大学教育学部附属高松小学校）
○小松 裕貴（香川大学教育学部附属高松小学校）

全体討議（10:40-11:00）

第2日（6月21日）9：00～11：00

自由研究Ⅱ－3

M203 講義室

司会 木村 優（福井大学）

澤田 稔（上智大学）

9:00 福島大学附属中学校における昭和20年代のカリキュラムの特徴

初沢 敏生（福島大学）

9:25 教科の学びを生かし、自己の生き方・在り方を問い直す探究の在り方

—新領域「MIRAI」の実践から—

○左海 亮（香川大学教育学部附属高松中学校）

○氏部 崇之（香川大学教育学部附属高松中学校）

10:15 「教科等選好」の提案 —教育課程の教科・領域における威信構造への注目—

根津 朋実（早稲田大学）

全体討議（10:40-11:00）

自由研究Ⅱ－4

M204 講義室

司会 宇都宮 明子（広島大学）

柴田 好章（名古屋大学）

9:00 戦後台湾カリキュラム史における「生活」概念の検討

山下 大喜（山口大学）

9:25 綴方復興はカリキュラムに何をもたらしたのか

—国分一太郎による言語教育の再定位—

永田 和寛（星城大学）

9:50 フラットな教員研修の構築を目指した実践と課題

—総合的な学習のカリキュラム改善をめぐる協働と試行錯誤—

○緩利 真奈美（東京農業大学）

○飯干 新（鳴門教育大学大学院）

○岡田 真史（広島大学大学院）

全体討議（10:40-11:00）

第2日（6月21日）9：00～11：00

自由研究Ⅱ－5

M301 講義室

司会 藤井 浩史（花園大学）

工藤 文三（浦和大学）

9:00 チーム担任制を基盤としたカリキュラム・マネジメント

濱松 章洋（明星大学）

9:25 Curriculum Leadership, Knowledge leadership, Intellectual Capital と Curriculum Management の整合性に関する理論的研究

倉本 哲男（静岡文化芸術大学）

9:50 地域課題・学校課題と向き合うコミュニティ・スクール経営とカリキュラム・マネジメント

○大田 誠（山陽小野田市立埴生小中一貫校）

○小西 哲也（下関市立大学）

全体討議（10:40-11:00）

自由研究Ⅱ－6

M302 講義室

司会 遠藤 貴広（福井大学）

的場 正美（愛知文教大学）

9:00 日課表再構築による時間創出と学校経営改善の実証的研究

—教員の合意形成を基盤とした教育課程マネジメント—

室木 宏支（平塚市立なでしこ小学校）

9:25 生成 AI パイロット事業による校務の標準化と教育課程編成の高度化

—教員の専門性変容プロセスの分析—

楠本 正義（札幌市立あいの里東中学校）

9:50 カリキュラム研究の意味と無意味について

—カリキュラム研究の高度化と教員養成の空洞化—

磯田 文雄（花園大学）

全体討議（10:15-11:00）

第2日（6月21日）9：00～11：00

自由研究Ⅱ－7

M303 講義室

司会 伊藤 実歩子（立教大学）
森 久佳（京都女子大学）

9:00 「災害」に注目した2024年度小学校全教科教科書の分析
大辻 永（東洋大学）

9:25 インクルーシブなスウェーデンの義務教育学校
—発達障害児童とカリキュラムに注目して—
戸野塚 厚子（宮城学院女子大学）

9:50 ホームスクーリングにおける学びの生成過程 —保護者の語りの分析—
岡田 佳子（長崎大学）

10:15 学校を基盤としたカリキュラム開発を志向した単元の開発と接続
—生活介護事業所との継続的な関わりを軸とした系統的構成—
石垣 雅也（北海道教育大学釧路校）

全体討議（10:40-11:00）

自由研究Ⅱ－8

M304 講義室

司会 石田 有記（日本体育大学）
緩利 誠（昭和女子大学）

9:00 ヒルダ・タバにおける概念型カリキュラムの成立
—集団間相互理解教育に焦点を合わせて—
杉村 陸（京都大学大学院）

9:25 カリキュラムの歴史社会学的研究の可能性
—Goodsonらのカリキュラム・ヒストリー研究からの示唆—
大橋 隆広（浜松学院大学）

9:50 自己評価による授業のグランドデザインに関する研究
—OPPA論を中心として—
中島 雅子（埼玉大学）

全体討議（10:15-11:00）

第2日（6月21日）9：00～11：00

自由研究Ⅱ－9

M401 講義室

司会 木原 俊行（四天王寺大学）
高橋 英児（山梨大学）

9:00 Bertha Payne の幼児教育観 —カリキュラム関連資料の検討を中心に—
野尻 美枝（実践女子大学）

9:25 教育学的概念における幼児教育と学校教育の接続
北林 雅洋（花園大学）

9:50 幼児教育における象徴的多言語性と教師エージェンシー
—日本の教室における可視性と相互行為の乖離に着目して—
周 艶芳（広島大学）

10:15 小中一貫校の開校期における実践をめぐる教師の語りと行為の構成
—インタビューデータの質的分析を通して—
藤江 康彦（東京大学）

全体討議（10:40-11:00）

課題研究Ⅲ

人口減少社会に学校カリキュラムはどのように貢献しうるのか？

M401 講義室

日本は2005年に人口減少社会へと移行し、地域社会の縮減、学校統廃合の進行、労働力構造の変化など、教育を取り巻く条件は大きく変容している。本学会ではこれまで、人口減少社会をめぐるカリキュラムの課題として、問い①「人口減少社会における課題に対して、学校カリキュラムは貢献しうるのか」と、問い②「人口減少社会のカリキュラムはどのように変わるのか」の二つを設定してきた。昨年度（第36回大会）においては主として問い②に焦点を当て、人口減少が教育課程の編成条件や学校のあり方にかなる変化をもたらすのかを検討した。北海道の高校の様々な試み、島根県に始まる高校魅力化プロジェクトの豊富な実践事例、島嶼部、中山間地域の学校のへき地教育の多様な試み、という貴重な提案と討論が行われた。これらの提案で、人口減少社会におけるカリキュラムの状況、課題は明確になったと思われる。

これを受けて本年度は、問い①に焦点を移す。すなわち、人口減少という社会的課題そのものに対して、学校カリキュラムはいかなる貢献が可能なのかを改めて問うものである。人口減少は単なる数的縮小ではなく、地域コミュニティの再編、世代間関係の変容、公共の担い手不足といった構造的課題を伴う。この状況において、地域課題解決型学習や探究的な学び、地域との協働的なカリキュラム開発は、持続可能な社会の形成に資する可能性を有する。

同時に、カリキュラムに過度な社会的機能を期待することの妥当性や限界も検討する必要がある。本課題研究では、具体的実践と理論的検討を往還しながら、学校カリキュラムの社会的役割とその条件を多角的に考察したい。

<発表者>

- ・人口減少下の地域と再生策 ―農村を中心に― 小田切 徳美（明治大学、非会員）
- ・学校の小規模化にみるへき地・小規模校のカリキュラムの特長と今後の可能性
川前 あゆみ（北海道教育大学、非会員）
- ・人口減少社会におけるカリキュラムデザインと市民育成
―Community Based Curriculum と Three-Layer Blended Learning の視点から―
草原 和博（広島大学）

<指定討論>

- ・高橋 亜希子（日本女子大学）（書面参加）
- ・大貫 守（愛知県立大学）

<司会>

- ・田村 知子（早稲田大学）
- ・奥村 好美（京都大学）

<コーディネーター>

- ・中野 和光（福岡教育大学名誉教授）
- ・田村 知子（早稲田大学）
- ・奥村 好美（京都大学）

課題研究IV

“ことば”とカリキュラム
—体験や生活を基とした授業・学校づくり—

M304 講義室

前回（2025年6月）より、広報・若手育成委員会の新たな取り組みとして、カリキュラム研究と他の研究領域・論点の接点という観点からテーマを設定し、それをシリーズ化するという取り組みを開始した。本課題研究では“ことば”とカリキュラムというテーマを設定した。

現代における生成AIの発展はめざましい。生成AIは記号をあやつり、文章を書くことも巧みである。しかし、その記号は実体験や具体物と必ずしも結びついていない。

一方、人にとってことばは内面の意味世界を社会と繋ぐものでもある。ことばは、ある文化や社会で共有される意味の体系である。そして個人は自身の感情や経験について、ことばを通して表現する。生活や体験、自身の内面に根ざしたことばを語りあい、書くことは学びの原点の一つである。現在、「個別最適な学び」について議論が進められつつあるが、こうした“ことば”の持つ共同性・関係性との接点をどのように捉え、また、新たな学びを構想することができるだろうか。

こうした問題意識から、本課題研究では、“ことば”をキーワードにして、授業づくり、カリキュラムについて検討する。ことばを基に授業やカリキュラム、学校をどのように作るか。その具体と意義について話題提供を基に話し合う。

<発表者>

- ・ことばと読みの授業づくり —教科書からの探究—

秋田 喜代美（学習院大学、非会員）

- ・フレネ教育における子どもの「自然な」ことばの習得と自己表現の共有の重要性

瓦林 亜希子（東洋大学）

- ・高校における綴方的実践と学校づくり

和井田 祐司（愛知教育大学）

<司会・コーディネーター>

- ・川地 亜弥子（神戸大学）

- ・高橋 亜希子（日本女子大学）

私たちはこれまで、欧州を中心に大学入試、総合学習の動向を調査してきた。その成果として、『変動する大学入試』（2020年）『変動する総合・探究学習』（2023年、いずれも大修館書店）を上梓してきたが、これらの研究過程で浮上してきたのが、本ラウンドテーブルの才能教育・エリート教育というテーマである。

この分野における比較研究では、英・仏はエリート教育、米は才能教育に長い歴史を持っている国として、これまでも注目されてきた。しかしこうした「先進国」の事例は日本における私たちにはあまり参考にならない。前提（法整備、専門家、ネットワークなど）に大きな隔たりがあるからである。

そこで私たちが今回のラウンドテーブルで注目するのが、才能教育・エリート教育に積極的ではない（なかった）国である。

平等主義的な志向性の強いオランダの教育政策において、ギフテッドを含む才能教育に重点が置かれ始めたのは2000年代以降のことである。ギフテッドの子どもを持つ保護者からの批判を受けて、2000年に全国ギフテッド情報センターが設立された。オランダでは、元々不登校の子ども数は少なかったものの近年急激に増加し、深刻化している。その中には、特にギフテッドの子どもたちが多く含まれる傾向があると考えられる。一方で、ギフテッド教育の動向は、特に2010年頃より、政府が卓越性に重点を置きはじめたこととも無関係ではない。発表では、オランダのギフテッド教育をめぐる動向やギフテッド教育の考え方、さらに実際の学校の事例を紹介したい。

オーストリアもオランダと同時期に才能教育に注力し始めた。それはやはり、OECDあるいはEUにおける議論と関係がある。PISA以降、特に強化された「コンピテンシーに基づいた教育」という視点からは、そのもっとも強い形として、ギフテッドの高度な能力開発と見ることもできる。ザルツブルク大学が先行して、また近年ではグラーツ大学がその研究に取り組むようになっている。発表では、才能教育をめぐる教育政策を概観しながら、同時に1998年に設立されたウィーンのいわゆるギフテッドの子どもたちのためのギムナジウムの事例を見ることで、欧州における才能教育の現在地を確認したい。

<企画者>

伊藤 実歩子（立教大学）

<発表者>

・オランダの場合

奥村 好美（京都大学）

・オーストリアの場合

伊藤 実歩子（立教大学）

<司会>

・徳永 俊太（京都教育大学）

・本宮 裕示郎（滋賀県立大学）

第2日（6月21日）14：45～16：15

自主企画セッションⅡ（ラウンドテーブル）

普通科高校の教科横断型学習・探究学習における教員の協働
—日本・フランス・フィンランドの比較—

M202 講義室

日本の普通科高校では、教科横断型学習・探究学習の導入が進みつつある。高校学習指導要領改訂においては、探究と名の付く科目が多く導入され、教科等横断的な学習も推奨される。令和4年からは「普通教育を主とする学科」として、学際的な学びや地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科の設置も可能になっている。

一方、教科横断型学習・探究学習を実施する場合、教員の協働をいかに構築するかという課題がある。例えば「総合的な探究の時間」や教科横断型の「理数探究」を行うためには、教科を超えた協力・指導体制を構築する必要がある。しかし、教科の専門性が高い普通科高校では、教科を超えた教員の協力は難しい側面がある。

だが、探究学習や教科横断型学習を普通科高校のカリキュラムに導入する動きは、世界でも生じている。そして、高校における教科間の教員の協働の難しさは、各国に共通する。打ち合わせの時間の確保の難しさ、教科間のディシプリンの相違、大学入試との接続などが課題となる中で、授業づくりや生徒への支援に関してどのような工夫がなされているのだろうか。

本企画では、フランスとフィンランド、日本の状況を比較しながら上の問いに接近する。フランスは教科中心であり、教科横断型学習に否定的である。一方でフィンランドは以前から教科横断型学習に積極的であり、2019年には必修教科間での教科横断が可能なモジュール制も導入された。各国のカリキュラムと指導の実際を紹介しながら議論を深めたい。

<企画者>

- ・高橋 亜希子（日本女子大学）

<発表者>

- ・フランスの高校における教員の協働
—新教科「人文学・文学・哲学」にみる教科横断的連携の実態—
細尾 萌子（立命館大学）
- ・フィンランドの高校における「新たな挑戦」としての教員の協働
—教員の自主性に基づく草の根的アプローチ—
渡邊 あや（津田塾大学）
- ・日本の「探究」における教員の協働
—探究の必修化に伴う指導形態のさまざまな工夫と課題—
高橋 亜希子（日本女子大学）

<司会>

- ・渡邊 あや（津田塾大学）
- ・細尾 萌子（立命館大学）

エビデンスとナラティブをつなぐ
—デジタル・ポートフォリオのデザインと実践—

M203 講義室

私たちは、内閣府 SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の助成を受けて、「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発（AICAN）」（研究開発責任者：松下佳代）というプロジェクトを進めている。AICAN の取組の一つに、デジタル・ポートフォリオの開発がある。

ポートフォリオ（eポートフォリオ）はともすれば、学習の成果物を単に保管したり、DP（ディプロマ・ポリシー）への到達状況を数値的に可視化したりするものにとどまりがちである。これに対し、AICAN デジポのコンセプトは、学びの証拠資料（エビデンス）を蓄積・編集し、他者（教師やピア）と共有・対話しながら、生徒・学生が自らの学びのストーリーを紡ぐのを促すことにある。まさに、質的エビデンスとナラティブをつなぐのが、AICAN デジポの特徴といえる。

AICAN デジポは、2023 年度後半から開発に着手し、現在、中学校、高校、大学で活用・実践されるに至っている。

当日は、AICAN デジポのデモや生徒・学生の声の紹介をまじえながら、デジタル・ポートフォリオの新たな可能性について議論したい。

<企画者>

- ・松下 佳代（京都芸術大学）

<発表者>

- ・AICAN デジポのコンセプト

石井 英真（京都大学）

- ・AICAN デジポの開発と秋田での試行 —システムの面から—

久富 望（花園大学）

- ・AICAN デジポの実践 —SSH 校における活用事例の特質と課題—

田中 孝平（北海道大学）

- ・京都大学におけるデジタル・ポートフォリオの活用

西岡 加名恵（京都大学）

<司会>

- ・松下 佳代（京都芸術大学）

<指定討論者>

- ・杉田 浩崇（広島大学）

人間と自然の境界線を問い直す
—概念型カリキュラムにもとづく「世界市民教育」の挑戦—

M204 講義室

本 RT は概念型カリキュラムデザインの方法・意義・限界（カリキュラムの方法）および境界線のアンラーン（カリキュラムの内容）の意義と課題について、人権教育・平和教育・環境教育をテーマとして発表者らが進めてきた同カリキュラム開発の成果を特に環境教育に焦点を当てながら提案する。企画者は、2020年より世界市民教育（Global Citizenship Education：GCED）に力を入れてきたマレーシアのインターナショナル・スクールの教員と、境界線を中心とする概念型カリキュラムの開発・実施・分析評価に携わってきた。

世界市民教育を境界線という概念から見たとき、境界線はもっぱら「乗り越える」ものないし「消す」べきものとして扱われてきた。しかしながら、社会も、アイデンティティも、政治も、科学も、そして学習そのものさえも、境界線を引くことによってはじめて作動する。消すことのできない境界線をあたかも消すことが出来るように扱う世界市民教育を乗り越えて、むしろ社会が、学校が、子どもたち自身が引いている境界線を省察し、別様に引き直す可能性を熟考吟味することこそが、分断が広がる現代にこそ求められる世界市民教育ではないだろうか。この境界線の省察のために、世界事象を再構成的にカテゴライズすることを学ぶ概念型学習を方略として採った。こうした省察的な学習プロセスを、境界線の「上に立つ」視点の獲得として表現し、「境界線の上に立つ」反越境型世界市民教育を提案してきた。

概念型学習も一つの境界線引きである。発表者らは、境界線を引くことから逃れる立場を批判し、引き続けねばならないジレンマを自覚したうえで、境界線と向き合う学習及び授業はいかにして可能となるのかを中心的な問いに据え追求してきた。

環境教育の中で扱われる境界線引きは人間-自然関係である。農園での作物を育てる取り組みと概念型学習における省察を通して、開発されるもの、保護すべきもの、人間的なもの等として多様に線引きされる自然と、子どもたちがどのような関係形成を構築しているかを構想・実践し、その成果を分析した。カリキュラムデザインのコンセプト（境界線×世界市民教育）、カリキュラムの計画と実施（環境教育実践の概要）、達成（分析成果）を発表し、参加者と同実践の意義と課題、概念型カリキュラムの可能性について意見を交流したい。

<企画者>

- ・宮本 勇一（名古屋大学）

<発表者>

- ・概念型カリキュラムによる環境教育実践 —デザイン・実践・分析—

宮本 勇一（名古屋大学）

大城 朝周（広島大学大学院）

佐藤 瞬（教育と探求社、非会員）

<司会・指定討論者>

- ・草原 和博（広島大学）

子どもたちをゆさぶり、応答関係を創り出す 発問を再考する!

詳しい
内容は
学事出版
HPで



子どもがつながる、 学びが深まる 「発問」

「個別最適化時代」の教師の問い

竹川慎哉 + 豊田ひさき 編著

- A5判・168ページ
- 定価2,310円(本体2,100円+税)
- ISBN: 978-4-7619-3037-0

- I 発問の考え方
- II 個別の学び、協働の学びと教師の問いかけ
- III 探究学習と教師の問い
- IV 争点のある学びと教師の問い
- V 子どもの多様性と学び

「個別最適化時代」の教師の問い
子どもがつながる、
学びが深まる

多様な
子どもたちを
教師の発問で
つなげるために



「正答」を
押しつけるだけ、
一問一答の発問に
陥らないための
全教師必読の書!!

詳しくは、「学事出版」ホームページをご覧ください。ご注文もできます。 <https://www.gakuji.co.jp>



学事出版

千代田区神田神保町1-2-5 和栗ハトヤビル3F

TEL 03-3518-9016

FAX 0120-655-514

社会科学における真正の評価

デイヴィッド・シエリン 著
渡部竜也、堀田論 訳

あなたは何を映し出す? 筆記に限らず創造的な学習活動に社会科学教育で取り組み評価する。多様な表現方法で実践から考究する。▼A5判並製・三二六頁・五〇〇〇円

子どもの声を聴く教師たち

植松千喜 著

声を書くことの諸相を、実践記録とともにクリティカル・ペダゴジーや多文化教育の論点で問い、知的な自由に関わられた教育や社会の契機を描く。▼四六判上製・三二五頁・四五〇〇円

「きく」教育研究のオルタナティブ

神林哲平 著

「きく」教育をめぐると「聞く」ことの本質や構造とその意義を、アイディアの現象学的聴覚論や、音声の経験に関する教育者の思想、各事例から探究する。▼A5判上製・三六二頁・五〇〇〇円

モンテッソーリ教具の成立過程

竹田康子 著

セカンからアルヌヴィルを経てモンテッソーリへ。知的教育を導く際、教具を媒介とする援助で子どもの自己教育を可能にする方法を打ち立てた、モンテッソーリの思想とその意義を検討する。▼A5判上製・二七二頁・四〇〇〇円

Enhancing Pharmacy Students' L2 English Proficiency

Vocabulary Knowledge and Collaborative Learning in Reading

鳥崎治子 著

薬学教育における第二言語習得と医療英語教育に際し、語彙知識と協働リーディングの重要性・指導方略を提示する。(本文英語) ▼A5判並製・一八〇頁・六〇〇〇円

日本語教師のキャリア形成

高井かおり 著

その多様性・複線性を形づくるもの。日本語教師を志した五人へのインタビューを解析、一人ひとりに個別的で多様な主観的キャリアとしての日本語教師像を描出する。▼A5判上製・三二五頁・五五〇〇円

多文化共生社会の担い手を育てる

志賀玲子 著

日本語教育がもたらす知見や資質が、広く他者や異文化を愛容し、多文化社会を共につくる力を育むことを明らかにする。▼A5判並製・二〇八頁・三三〇〇円

生成AI×ロボティクス(AA A叢書第2巻)

中村靖子 監修
南谷奉良 編

AI・ロボット人間が共生する世界の未来像はどのように描けるか? 科学技術と伝統的人文学とをつなげ、新たな人文学を確立する試み。▼A5判並製・二八六頁・四〇〇〇円



〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘 53 横浜市教育会館 3 階
電話: 045-261-3168 / FAX: 045-261-3169 info@shumpu.com

<http://www.shumpu.com/>
*表示価格はすべて税別です

教育「変革」の時代の羅針盤

「教育DX×個別最適な学び」の光と影

石井英真 著

A5判 240ページ 定価:2,860円(税込)

教育「変革」の時代の羅針盤

「教育DX×個別最適な学び」の光と影

石井英真 著



(「はしがき—教育「改革」の時代から教育「変革」の時代へ」より)
教育「変革」政策が、タテ社会日本の、世間に準拠した行動に流れがちな同調主義、そして、めいめいの努力に依存する精神論に傾斜しがちな自力主義を少しなりとも問い直すものになりうるのか。そして、より多くの子どもたちのウェルビーイングを保障する、より共生的で機動性のある公教育システムの構築につながりうるのか。あるいは逆に、情報技術革新のインパクトも技術的に消費して、自由と多様性の名の下に社会の分極化と不安定化を強め、主体性尊重の名の下に、心理主義と社会問題の個人化の傾向を強め、結果として生きづらさの拡大につながるおそれはないのか。本書では、教育「変革」政策の光と影を見極めて、「日本型学校教育」の再構築につなげる道筋について論じたいと思います。

現代カリキュラム研究の動向と展望

日本カリキュラム学会 編 A5判 420ページ 定価:5,060円(税込)

カリキュラム理論の展望、カリキュラム実践の課題、カリキュラム研究の方法について幅広く取り上げて論究。日本カリキュラム学会の30周年記念出版。



教育出版

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

TEL: 03-5579-6725
FAX: 03-5579-6693



日本型 STEM 教育のための理論と実践

定価 2,420円 (本体 2,200円 + 税 10%)
ISBN 978-4-7625-0247-7



磯崎哲夫 編著 判型 B5 判 180 ページ

世界的に STEM 教育が始まっている今、日本の学校教育ではどのように考えて実践すればよいのでしょうか。本書は、この問いに、「考えること、使えること」をコンセプトに、理論と実践から答えています。評価や教員養成の視点や、小学校から高校まで実践事例も幅広く掲載。



初等理科教育法

～先生を目指す人と若い先生のために～ 定価 1,980円 (本体 1,800円 + 税 10%)
ISBN 978-4-7625-0240-8



磯崎哲夫 / 編著 判型 B5 判 168 ページ

アクティブ・ラーニングの視点から小学校理科での取り組み方、小学校の理科の事例を交えた新しい評価の在り方などを、世界的な教育学の動向を踏まえながら解説。各領域の基礎知識と教材研究についてや、各学年の単元をもとに指導のポイント、指導案などを掲載。



学校図書株式会社
URL <https://gakuto.co.jp/>

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-23-1
mail: suishin@gakuto.co.jp

「教育展望」

(2026年4月より隔月発行)

毎月15日発行、A5判、64頁、定価600円(545円+税)

2026年 特集

6月号 これからの時代に求められる教育長の在り方
 4月号 教育にとつての「昭和100年」―未来に向けての示唆
 3月号 今、全国学力・学習状況調査をどう活かすか
 1・2月合併号 初中等教育におけるこれからのキャリア教育の在り方
 2025年 特集

11・12月合併号 第54回教育展望セミナー報告
 10月号 これからの時代の市民性を育む学校教育の在り方
 9月号 今、求められる教員養成・研修の在り方
 7・8月合併号 学習指導要領の改訂に向けた文科大臣「諮問」をどう見るか―第2回
 6月号 教育格差への対応
 5月号 学校における防災・防災教育の現在とこれから
 4月号 学習指導要領の改訂に向けた文科大臣「諮問」をどう見るか―第1回
 3月号 問題を発見し解決していく力の育成
 1・2月合併号 学校における働き方改革の現在

「教育展望」臨時増刊

セミナー研究討議資料

A5判、定価2619円(2381円+税)

No.57 (第54回教育展望セミナー)
 2025年7月発行、88頁
 子どもの新たな時代の創り手となる学校教育の構築
 ―学習指導要領の改訂に向けた提言―
 No.56 (第53回教育展望セミナー)
 2024年7月発行、104頁
 変革の時代の学校教育を展望するIV
 ―学習指導要領に基づく教育課程の実施状況と次期改訂に向けての提言―

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館
 TEL: 03-3520-2970 FAX: 03-5579-6574
 E-Mail: chouken@estate.ocn.ne.jp

教育調査研究所

一般財団法人

カリキュラム研究事典

クレイク・クライデル編 西岡加名恵／藤本和久／石井英真／田中耕治監訳
 基本的なキーワードから周辺研究の解説まで全505項目を収録した「読む事典」。
 今後の日本の教育課程を考える上で示唆に富んだ一冊。 220000円*2刷

「新しい能力」は教育に何をもたらしたのか

資質・能力ベースの改革を飼いならす
 松下佳代子編著 「新しい能力」概念は教育をどう変えたのか。そして、私たちは
 いかにか光と影を把握し、飼いならすことができるのか。 49500円

OECD Education 2030プロジェクトが描く教育の未来

白井俊著 ●エージェンシー、資質・能力とカリキュラム OECDと文科省両方の
 の立場からプロジェクトにかかわった著者による渾身の1冊。33000円*11刷

「教育評価」の基礎的研究

田中耕治著 ●「シカゴ学派」に学ぶ「教育評価」概念のルーツを創発した「シカゴ
 学派」の理論的営為を原典に即して丹念に読み解く。 82500円

戦後日本教育方法論史(上・下)

田中耕治編著
 「上巻」カリキュラムと授業をめぐる理論的承譜*3刷 各38500円
 「下巻」各教科・領域等における理論と実践*2刷

日本の教育の豊かな実践研究・理論研究の成果とこれからの課題について論争を
 よんできた主要な問題領域をとりあげて戦後初期から現在までの歴史をたどる。

① 学級経営の理論と方法

田中耕治監修
 シリーズ学級経営
 学級と子どもたちに向き合う理論と実践知とは。 田中耕治編著 28600円

② 事例で読む学級経営

九人の教師が語る二つとない学級のドラマ。 岸田蘭子／盛永俊弘編著 27500円

よくわかる授業論

よくわかる教育課程 [第2版] 田中耕治編 28600円*9刷

よくわかる教育評価 [第3版]

よくわかる教育評価 [第3版] 田中耕治編 30800円*2刷

ミネルヴァ書房

〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1 *表示価格税込 目録呈
 TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/

カリキュラム・オーナーシップ

教育課程改革の設計図

〔著〕石井英真 (京都大学大学院准教授)

四六判 / 248頁 / 定価2,530円 (本体2,300円+税10%)

本書の内容

第1部 教育課程を問うためのリテラシー

- 第1章 教育課程を問うとはどういうことか
- 第2章 カリキュラムに関する最新の知見とその源流にあるものとは

第2部 資質・能力ベースの学習指導要領の原点の再確認とその趣旨のつかみ直し

- 第3章 資質・能力ベースのカリキュラムを目指すとはどういうことか?
- 第4章 観点別評価をどう捉えるか?
- 第5章 学びの変革をどう捉えるか?
- 第6章 探究的な学びをどう捉えるか?
- 第7章 カリキュラム・マネジメントをどう捉えるか?

第3部 2017年版学習指導要領の「熟成」

- 第8章 教育「変革」政策で問われた日本の公教育の当たり前
- 第9章 次期学習指導要領改訂の論点と展望



好評発売中!

学校現場におけるカリキュラムのオーナーシップ(自分ごと)回復をめざして、そもそも教育課程とは何かという基礎的知見、さらに現行学習指導要領で積み残された課題(資質・能力、評価、探究、カリマネ等)を整理したうえで、次期学習指導要領改訂論議の読み解き方を解説する。学校現場でカリキュラム・メイキングを遂行するための知見を網羅した書。



教育開発研究所

東京都文京区本郷2-15-13
TEL: 03-3815-7041

小社は送料無料で即日発送!

オンラインショップは早くてカンタン



スクール・ポリシー
学校教育目標のアクセスメントとカリキュラム・マネジメントの組織化に向けて
溝上慎一編著
A5・二六四頁・二二〇〇円

主体性総論 学びと成長の講話シリーズ第6巻
主体性とは何か、なぜこれほど求められるのか
溝上慎一著
A5・一九二頁・一七六〇円

幸福と訳すな! ウェルビーイング論
学びと成長の講話シリーズ第5巻 自身のライフ構築を目指して
溝上慎一著
A5・一九二頁・一六五〇円

インサイドアウト思考 学びと成長の講話シリーズ第4巻
創造的思考から個人的な学習・ライフの構築へ
溝上慎一著
A5・一九二頁・一六五〇円

高校生の学びと成長に向けた「大学選び」
偏差値もうまく利用する 溝上慎一著
新書・一七六頁・九九〇円

社会性と情動の学習 小出と非認知スキルを依拠を拓く教育
水野谷優・小川啓一・小原ベルファリゆり編著
A5・二九六頁・三一九〇円

日本の海洋教育の原点 田中智志 小園喜弘 山口康大編著
(戦後) 国語科編 A5・二八〇頁・三一九〇円
(戦後) 社会科編 A5・二五二頁・二八六〇円
A5・二〇二頁・三〇八〇円

熟議にもとづく主権者教育と学校教育
市民的公共圏の実現を目指して
斉藤雄次著
A5・二四〇頁・五一七〇円

アメリカの体育カリキュラム設計論
その成立と展開 徳島祐彌著
A5・三二〇頁・三七四〇円

現代アメリカにおける学力形成論の展開 (増補版)
スタンダードに基づくカリキュラム設計
石井英真著
A5・五三三頁・五二八〇円

フランスのシテイズンシップ教育理念の展開
共和制モデルの変遷に着目して
降旗直子著
A5・三三六頁・五二八〇円

文字を手書きさせる教育 「書写」に何ができるのか
シリーズ『大学の授業実践』鈴木慶子著 好評4刷
A5・二六四頁・二六四〇円

「書く」ことによる学生の自己形成
文章表現「パーソナルライティング」の実践を通して
谷美奈著
A5・一八四頁・二六四〇円

ストーリー中心型カリキュラムの理論と実践
根本淳子・鈴木克明編
A5・二五六頁・三七四〇円

東信堂
直接注文
お問い合わせ



アマゾン



楽天
ブックス



丸善
淳久堂



紀伊國屋
書店



東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
HP <http://www.toshindo-pub.com>
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514
✉ toshindo_onlineorder1985@gmail.com
✉ tk203444@tsinet.or.jp (代表)

* 博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで!

個人の尊厳と自立を基調とする 学習集団づくり

学習集団研究の現在 vol. 5

深澤広明・福田篤志・吉田成章【編著】2,310円 ISBN978-4-86327-695-6

シリーズ既刊書 好評発売中

- 【vol.1】いま求められる授業づくりの転換 1,980円
- 【vol.2】学習集団づくりが描く「学びの地図」 1,980円
- 【vol.3】学習集団づくりが育てる「学びに向かう力」 2,090円
- 【vol.4】授業研究を軸とした学習集団による学校づくり 1,980円

家政教育学研究の展開と展望

—未来の生活者を育てる—

鈴木明子・森千晴・梶山曜子・宮川駿【編著】
4,180円 ISBN978-4-86327-692-5

暮らしの学び舎 Salmatt (2025.4～) 主催・鈴木明子教授退職
記念論集。家政教育研究を、理論と実践の両面から真摯に考える。



教育と福祉が出会う支援

—子ども・教師・専門職がつながる学校・地域をめざして—

山本理恵・望月彰、愛知県立大学「教育福祉学研究会」【編著】
2,420円 ISBN978-4-86327-613-0

子ども達の困難やつらさの背景をソーシャルワークの視点で読み解き、
学校・地域・福祉が連携・連関してそれを改善する道筋を探る。



◆お問合せ 直接のご注文は



溪水社

〒730-0053 広島市中区東千田町1丁目4-7 三上ビル 102
E-mail: contact@keisui.co.jp TEL (082) 246-7909

ドイツにおける通信簿の歴史

卜部匡司 3,960円

〈教育〉をつくる

琉球大学教育学部・附属小学校 1,980円

米国都市学区における学校選択制の 発展と限界

成松美枝 4,180円

キャリア教育推進のための 研修マネジメント

朝倉淳ほか 1,650円

造形的イメージ操作の分析による思考の 解明と造形教育カリキュラムへの適用

佐藤史子 6,050円

道徳科のカリキュラム・マネジメント を実現する年間指導

中野真悟 1,650円

児童生徒の学校適応感がUPする PBAODによる道徳プログラム実践集

森川敦子 2,750円★オンデマンド(ネット限定)

「体育」から逃走する子どもたち

石垣健二 2,420円★オンデマンド(ネット限定)

戦時戦後の留学生政策に関する研究

平野裕次 3,520円★オンデマンド(ネット限定)

書籍の詳細情報はホームページで

<http://www.keisui.co.jp>

日本カリキュラム学会第37回(広島大学)大会プログラム

2026年6月20日(土)・21日(日)

大会実行委員会

広島大学

広島県東広島市鏡山1-1-1

委員長：磯崎哲夫

副委員長：草原和博

事務局長：吉田成章

事務局次長：川口広美

実行委員：宇都宮明子 中矢礼美 野村優成

南浦涼介 渡邊巧

